

三位一体の主日 (ヨハネ 3:16-18)

たとえるのは非常に難しいけれど



三位一体の主日を迎えました。「例えるなら」ということを数日考えてみたのですが、昔から教会の教えに影響を与えてきた聖人たちや神学者たちがこの神秘に取り組んできました。御父と御子が一つであるのは愛である聖霊の存在があるからですと、私も神学生時代に習った気がします。同じ一つの思いを持ったカップルが、同時に LINE を入れたたり、電話をかけたりすることがあると思いますが、一つに結ばれているからこそ起きることです。「愛」が、二つのものを一つに結ぶ絆ですから、御父・御子・聖霊は一つであるわけです。

そこで考えたのが、「なぜ『愛』は愛する者同士を一つにするのか」ということです。食べ物に例えますと、「とんかつ定食」はとんかつとご飯が別にあります。似たような定食で「カツ丼」定食は、丼の上にとんかつがあります。カツ丼は一つの器に入ってますから一つですが、実際には二つです。

何が違うのか。私は「質量」の違いが、愛する者同士の「愛」と、「丼」の中のカツとご飯の違いではないかと考えました。「質量」があるものは、一つの器の中に入れても、一つにはなり得ない。しかし「質量」に縛られない「愛」は、二つのものを一つにする力があるのではないのでしょうか。

これはあくまで例えです。三位一体の唯一の神様を説明し尽くす答えではありません。しかし日常生活の中で、唯一の神様が父と子と聖霊の三位であられることを、日常の体験で例えるなら、こんな切り口があっても良いのではないかと。そう思うのです。「愛」は質量を持ちませんが、愛する者同士を一つに結びます。御父と御子と聖霊もまた、完全に一つであるのは、この世の例えで言えば、質量にとらわれないからではないのでしょうか。

最近、物質は最小の単位まで突き詰められてきましたが、それでも解決しなかったことがありました。「原子」が、人間や水、空気を含むすべての物質の最小単位とされてきましたが、では原子と原子のあいだには何があるのか？という疑問が解決されていなかったのです。その解決策として、なにか質量のあるものがあることを考えつきました。やはり、質量なしには、物質について、人間について、宇宙について、説明するのは難しそうです。

そこに来ると、「愛」は質量に縛られません。質量に縛られないものだけが、愛し合うものを一つにします。父と子と聖霊も、質量に縛られないので、完全に一つであると言えます。これが、今年、三位一体を考えるために浮かんだ「例えるなら」ということです。どんなに小さな単位を物質に探しても、質量がくっついてくる。けれども、「愛」と「信仰」は、質量に縛られない。そう考えることで、私たちは自分たちの「信仰」を、生活の中に持ち込むことができないのでしょうか。

私たちが一日のうちのほとんどのいる場所で、「愛」と「信仰」を語ることは非常に難しくなりました。しかし三位一体の週は、生活のど真ん中で、「物質」のことしか考えられない人々と、堂々と「愛」や「信仰」を語れるのではないかと思います。「物質」に縛られないものを知っている数少ない私たちは、この世の中で実に貴重な存在なのです。

何か、文系の人間が偉そうに理系の話をしてしまいましたが、こうした「例え」にたどり着いたのは、イエス様の次の言葉だと思っています。それは、ヨハネ 15 章の「あなたがたが世に属していたなら、世はあなたがたを身内として愛したはずである。だが、あなたがたは世に属していない。わたしがあなたがたを世から選び出した。だから、世はあなたがたを憎むのである。」(15・19)

「世」は、質量のあるものに依存しています。私たちは「質量」に縛られないものをよく理解していますが、「世」も、「質量」に縛られないものに知らずにお世話になっていますが、私たちは意識してお世話になっています。意識しているか、していないかの違いですが、実は共通の土台を持っているので、いつか理解してくれる日が来ると信じています。私たちが信じる「三位一体の神」を、信じない人々と分かち合う共通の土台はいつもそこにあります。

まずあなたが、「三位一体の神」「唯一でありながら、父と子と聖霊とがおられる神」を信じ、賛美しましょう。私たちがこの聖堂でも、社会の中でも三位一体の神を賛美することができるなら、あなたが宣教する準備はすでに整っています。「完全に一致できるものは、『質量』に囚われない、『愛』であり『信仰』です。私は、三位一体の神を通して、そのことをあなたに伝えます。」

あなたが宣教してくれた人を、形のある教会組織に連れてきてください。そして教会の家族に加わり、「質量」だけでない生活があることを、より多くの人と喜びあえますように。

キリストの聖体(ヨハネ 6:51-58)